

## ローマ13章11節 「もっと近づいた救い」

### 1A 時を知る

### 2A 聖書に書かれていること

#### 1B イスラエルと反対勢力

#### 2B キリスト者への迫害

#### 3B イスラム国とロシア

### 3A 目を覚ます時刻

### 4A 近づいた救い

## 本文

私たちは、今年最後の礼拝を守ることができ、主がここまで守ってくださったことを感謝しています。私たちは先週、クリスマス礼拝を守ることができました。そこで見たのは、「明けの明星」としてのイエス・キリストです。東方からの博士はユダヤ人を王が生まれたことを示す星を見て、エルサレムまで来ました。聖書には、キリストが来られることを「明けの明星」として呼んでいる箇所があります。「ペテロ 1:19 また、私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜明けとなって、明けの明星があなたがたの心の中に上るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めているとよいのです。」今の時代は夜のように暗いけれども、いつか間もなく夜が明けて、朝が来ます。その昼には、太陽が輝いていますが、預言者マラキはキリストのことを「義の太陽」と呼びました。それは神の国の到来です。この世にある、人の罪から生じるいろいろな悪いことを、キリストは再び来られる時に一掃し、そしてご自分の正義を輝かせる神の国をもたらしてくださいませ。けれども、その太陽が昇るまでは、キリストは夜明け前の星として私たちの心に輝いてくださいます。

その輝きを知るのに、「さらに確かな預言のみことば」があると使徒ペテロは言います。私たちは今朝、そして午後に、私たちに希望を与える、預言の言葉を見つめていきたいと思っています。

パウロはローマ 12 章から、自分自身を主に捧げる勧めを書いています。「この世に調子を合わせずに、思いの一新によって自分自身が変わられていきなさい。」と勧めました。そして、教会で奉仕するための賜物を用いて主に仕え、それから復讐をしないようにという戒めもしています。なぜなら、教会がこの世からの反対を受けるからです。悪に対して悪で報いることをせず、かえって善で報いなさい、復讐は主がしてくださいと勧められています。

それから 13 章に入って、この世における上からの権威はすべて従うように命じています。法律を守るように、それから納税も行なうように勧められています。そして何よりも、隣人を自分自身のように愛するという命令こそが、すべての律法を守るまとめであり、このことをキリスト者が第一として

生きるべきだということを話しています。

11 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行ないなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。

### 1A 時を知る

「今がどのような時か知っている」と使徒パウロは言っています。キリスト者であれば、今がどのような時代かを知っているはずだ、と彼は言っています。イエス様は、十字架に付けられるためにエルサレムに向かっている旅で、付いてくる大勢の群衆にこのように言われました。「ルカ 12:54-56 あなたがたは、西に雲が起るのを見るとすぐに、『にわか雨が来るぞ。』と言い、事実そのとおりになります。また南風が吹きだすと、『暑い日になるぞ。』と言い、事実そのとおりになります。偽善者たち。あなたがたは地や空の現象を見分けることを知りながら、どうして今のこの時代を見分けることができないのですか。」そうですね、私たちは天気予報を毎日見て、また天気かどうかいつも注目して、その徴を見ているのに、今のこの時代を見分けているかということとそれができていない、といえます。

イエス様は、これから十字架に付けられるという、暗闇の力が働くところに入られる、緊迫した状況にありました。主は十字架につけられ、三日目によみがえり、天に昇られましたが、再び戻ってこられます。私たちは、イエス様が来られた初臨と、再び来られる再臨の間に生きているのですが、再臨の前にも同じように暗闇の力が強く働く、緊迫した時代になります。そして今、私たちはその時にいます。

### 2A 聖書に書かれていること

私たちが生きている時代は、「**世界が、聖書が書かれているその通りのことに近づいている。**」とすることができます。二千年前、イエス様が天に昇られて、聖霊が弟子たちに下って教会が始まりました。そして、紀元 70 年にはエルサレムが破壊され、ユダヤ人は世界に散らばりました。イスラエルもなくなり、ユダヤ人も世界に散り、そして異邦人の中では教会は広がっていきましたが、それでもかつての顕著な聖霊の働きをあまり見ることはありませんでした。それで、人々は次第に、「聖書の時代は終わった。これからはまた別の秩序の中で私たちは生きていくのだ。」と思っていました。昔、イギリスで産業革命が起こって、その技術革新によって世界ががらっと変わりました。そこで、聖書は古代の遺物である、私たちは新しい時代に生きていると思いました。それで、世界が、そしてキリスト教会までが、これから先は、人々は進歩していく、黄金時代がやって来るのだと思っていました。

ところが、前世紀に人々は、「自分たちは何も変わっていない」ということを否が応にも認めざるを得ませんでした。二つの世界大戦です。第一次世界大戦では約二千万人が死に、第二次世界

大戦では、五千万人から八千万人死にました。人は進歩したどころか、何も変わっていなかったのです。医療技術も発達しました。ところが、得体の知れない疫病で死んでいく人々は後を絶ちません。今年にはエボラ出血熱が流行しました。私たちはなんとかして、「以前は悪かったが、今は良くなった。」と信じたいのです。ところが、何も変わっていないことを知って、がっかりします。国単位でもそうでしょう、今年には韓国ではセウォル号事件が起こり、韓国の人々は絶望しました。アメリカでは人種間による事件が起こり、これまでの人種差別の闘いの努力はどうしてしまったのかと、深い失望感と悔しさでいっぱいになっています。

それから、自然界も変わりました。1800年代にダーウィンによって進化論が科学界に入ってきましたが、それは、「自然は急激に変化することはない。徐々に、徐々に長い年数をかけて変化してきたに過ぎない。」という斉一説に基づくものでした。ところが、自然は急激に変わってきます。前世紀に入ってから地震でも大規模なものが増えて、生きている年数が長ければ、ここ数年の地震がかつてない規模で、広範囲になっていることを実感できるのではないかと思います。そして宇宙の起源もそうです。昔も今も宇宙は変わらない、と信じられ、ビッグ・バン理論は、当時は宗教と考えられていました。ところが、今、この理論を否定しようものなら科学界では物笑いになります。けれども、聖書は初めから、天と地は神によって六日で造られ、今の世界があること。そして、ノアの時代に水によって全世界が洪水に覆われたこと。そして世の終わりには、天変地異が起こること。こうした急激な変化を予告しており、今はその時代に近づいているのです。

イエス様が、世の終わりについて、こう言われました。「ルカ 21:10-11 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、大地震があり、方々に疫病やききんが起こり、恐ろしいことや天からのすさまじい前兆が現われます。」まさに、今、お話ししたことがことごとく起こっているのです。

### 1B イスラエルと反対勢力

「世界が、聖書が書かれているその通りのことに近づいている。」ということは、このことだけに限りません。聖書において、神はユーフラテス川の町ウルにいたアブラハムを選び、そしてカナンに導かれました。今のイスラエルです。そして、主に、このユーフラテス川と南のエジプトの間を中心にして、神は人の歴史に関わっておられました。神はこのアブラハムの子孫であるイスラエルをご自分の民として選ばれ、彼らによってご自身が王である神の国を造ろうとされていました。しかし、神のキリストをユダヤ人自身が拒んでしまったので、ユダヤ人は世界に散ってしまいました。そこで聖書もすべて書き記されました。その後、時代は長く続きました。だから、世界も教会も、まさか中東が世界の中心的舞台になるとは思っておらず、ましてやイスラエルなどという国は、古代の歴史の中でかつてあった国として記録されているだけ、だと思っていました。

ところが、ユダヤ人は頑なに生きてきました。彼らほど激しい迫害を受けた民族はありません。しかし死に絶えるどころか、世界に一定の影響力を及ぼす民族として生き残り続け、そしてついに、なんと古代の王国であったはずのユダヤ人の国家を、1948年に国際的認知の中で建ててしまっ

たのです。これで、聖書の時代に一気に針が戻ったのです。

イスラエルが、世界に散らされても再び戻ってくるということは、数多くの預言者が預言していたことであります。「イザヤ 11:12 主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。」そして、イエス様が再臨される時は、すべてのユダヤ人が集められることを、イエス様ご自身が預言されました。「マタイ 24:31 人の子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます。」

さらに、このイスラエルに対して、世界が攻撃することも聖書に預言されています。「ゼカリヤ 12:3 その日、わたしはエルサレムを、すべての国々の民にとって重い石とする。すべてそれがかつぐ者は、ひどく傷を受ける。地のすべての国々は、それに向かって集まって来よう。」ユダヤ人が、イスラエルの国を建てたその日のうちに周辺アラブ諸国が一斉に攻撃を開始しました。始まったばかりの小国イスラエルに、複数の大きなアラブ諸国が攻撃するのです、ところがイスラエルが勝ちました。そして六日戦争では、なんとたった六日でイスラエルの勝利、その時に土地が一気に四倍に拡大したのです。そして 73 年にも戦争をエジプトとシリアが引き起こしましたが、それが終結後はイスラエルにアラブ諸国が齒向かうことはなくなりました。

ところが、今度はイスラム原理主義が頭角を表します。イスラエルは完全に滅ぼさなければいけない存在であり、ユダヤ人を抹殺することを数々のテロ組織の綱領に掲げられています。その一つが、ガザ地区を支配しているハマスです。そして今年の 7 月、私たちはガザ戦争を経験しました。そして、もっと恐ろしいのは核兵器の開発をしているイランです。イランは、イスラエルを地図からなくしてしまうという言葉、指導者が何度となく宣言しています。私もツイッターでその指導者をフォローしていますが、つい最近も、イスラエルを完全に無くしてしまうための具体的な計画を書きこんでいました。

そして恐ろしいのは、ヨーロッパです。ヨーロッパは、ローマによって離散したユダヤ人が数多く住んでいましたが、そこで彼らを迫害していた歴史を持っています。反ユダヤ主義と呼ばれます。今日、ヨーロッパはイスラム原理主義を野ざらしにしている、彼らが行なう暴力行為を容認しています。反ユダヤ主義が再噴出しているのです。それから各国の政府も、イスラエル製品をボイコットするような動きや脅しをちらつかせて、反ユダヤ的になっているのです。そしてダニエル書には、かつてのローマからユダヤ人を迫害する反キリストが出現することを教えています。

ですから、神がイスラエルを回復させて、それからキリストが再臨されるということについて、まさに世界が聖書に近づいており、かつイスラエルを世界の諸国が攻撃する中で再臨するという預言も、その兆しが聖書の中に数多く出ているということです。

## 2B キリスト者への迫害

そして、もう一つ「世界が、聖書が書かれているその通りのことに近づいている。」と言えるのは、初代教会の時にあった、聖霊の力強い業とそれに対抗する迫害です。私たちはとかく、「かつては迫害がひどかったが、今は守られている。」と思ってしまいます。けれども事実は逆です。迫害は、教会史の中で最も多い人数になっています。なんと「一億人」がいると言われています。そして宗教的な迫害の80%は、キリスト者に対するものであると言われています。そして迫害している者たちで最も多いのは、イスラム教徒です。キリスト者が迫害されているのは、アジア、アフリカや中東で、カトリックの法王はイスラムによる迫害は「初代教会よりもさらに酷い迫害になっている。」と言いました。これも、イエス様が前もって語られたことです。「マタイ 24:9 そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。」

それと同時に、イエス様は「24:14 御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから終わりの日が来ます。」と言われました。福音が急速に世界に広がっています。そして、迫害がひどいと言われているところで、むしろ広がっていることもあります。これはまさに、初代教会が経験したことです。主は再び、聖霊によって同じ働きを行われています。

## 3B イスラム国とロシア

そして私たちは今年、中東の歴史の中でとんでもない出来事を目撃しました。イラクとシリアをまたぐイスラム国が出現したことです。これは、国連もどの主権国もその国を認知していませんが、世界中のイスラムの人々は自分たちの理想とする国ができたとして、地上の国々を超越した国を作ってしまった。彼らは、今の世界の国々はキリスト教が作った欧米列強が始めたもので、今のアラブの国々も欧米に妥協しているため、正式なイスラムの国ではないとしています。そしてすでに、イスラム国の中では行政も動き出しているのです。そこでは通貨はイスラム法に基づいて金貨を作ると発表しました。そして、このイスラム過激派は、反対する者を十字架刑にしたり、首切りを行なうだけでなく、キリスト者たち、子供も含めて首切りをしたり、また女性は性奴隷にしています。

この手法がまさに、聖書に出てくる残虐な殺し方に似ています。イスラム国が台頭したところは、イラク北部とシリアでかつてのアッシリア帝国と重なりますが、アッシリア帝国も恐ろしい残虐な方法で人々を恐怖に陥れることによって、帝国を拡大させました。

そしてイスラム国の台頭というのは、一つの時代を変えてしまったと言えます。それは、「アメリカの力が及ばなくなった。」ということです。最近までアメリカの国防長官であったチャック・ヘーゲル氏は、「イスラム国の大国で、世界は、第二次世界大戦以来の新しい世界秩序の中に入った。」と言いました。アメリカはアルカイダを掃討したと思ったら、別の形でイスラム国が出てきました。これまでの軍事力では、イスラムのテロを駆逐することができなくなったことを物語っています。なぜ

なら、イスラムという思想、いやイスラムという名で悪霊が強く働いているからです。霊の勢力に対して、物理的な力では対抗できません。けれども、キリスト教の遺産を自ら捨ててしまったアメリカは、依然として力と富は持っていますが、霊的な力を失ってしまったので、もはやそうした勢力を抑えることができなくなったのです。

イスラムがどのように、キリスト教また聖書に関わっているかも少し説明します。イスラムは、アッラーという唯一神に服従する宗教です。そしてユダヤ教とキリスト教に対抗する形で出てきた宗教です。彼らは、頻繁に暗誦しているコーランの箇所には、こういう文言があります。「だからアッラーとその使徒たちを信じなさい。「三(位)」などと言ってはならない。止めなさい。それがあなたのためになる。誠にアッラーは唯一の神であられる。かれに讃えあれ。かれに、何で子があろう」三位一体ではない、アッラーには子はないと言っているのです。これこそが、使徒ヨハネが警告していた、反キリストの霊であります。「1ヨハネ 2:22-23 偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。だれでも御子を否認する者は、御父を持たず、御子を告白する者は、御父をも持っているのです。」

それから、ロシアが今年は大台頭しました。最も大きかったのは、ウクライナのクリミアがロシアに編入されたことです。ロシアの拡張を私たちは見えています。このロシアも、聖書の終末の姿で大きな顔を見せます。このことについては、午後礼拝で、エゼキエル書 37 章で、取り扱います。さらに中国がものすごい力を持っています。というか、インドもそうですが、アジアにある国々が大きな力を持っています。聖書では、終わりの日に東から王たちが来て、涸れたユーフラテス川を渡ることが書かれています(黙示 16:12)。ですから日本はどうなのか？ということになれば、敢えて言うならここに当てはまります。

こうして今、アメリカが力を失ってしまいました。そのことによって、世界の中心が中東になったことが一段と明らかにされました。聖書の中には、アメリカは出てきません。けれども世界を支配する、別の指導者が出てくるのが、聖書で一貫して書かれています。かつてのローマ帝国を復興させるような形で、そうした指導者がユダヤ人とその神殿のことについて契約を結ばせ、それによって世界に平和をもたらそうとする人物が現われます。彼を、「荒らす憎むべき者」と聖書には書いてあります。彼が正体を表す時は、これまでも、またこれからもないような恐ろしい患難が地上を襲います。彼はまた、使徒ヨハネによると「反キリスト」と呼ばれています。アメリカではない、新しい世界の秩序をもたらす指導者が現われても、おかしくない時代に入ってきました。

ですから、イエス様が戻ってくる時は近づいています。

### **3A 目を覚ます時刻**

したがって、私たちは自分たちの生きている時を知らないといけません。その時が、実に聖書に書かれている通りになっている時代であり、キリストが再臨される前夜を示していることは確かです。

す。したがって、パウロはこう勧めます。「あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。」先ほど私たちは、明けの明星であるキリストを心に抱き、預言の言葉に目を留めればよいということを見ました。その作業を私たちは今、行ないました。次に私たちがしなければいけないのは、朝がこのように近づいたのだから、目を覚ますということです。

目を覚ますとは、いったいどういうことでしょうか？パウロは続けて、こう書いています。「12 夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。13 遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。14 主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。」夜というのは、暗闇の業、ここに列挙されているように、罪の生活です。肉の欲求に支配されている生活のことです。そして昼というのは、神の聖さです。エペソ5章9節には、「光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです。」とあります。

私たちはいとも簡単に、ここに列挙されているような肉の行ないに引きずり込まれてしまいます。遊興と酩酊とありますが、かつて友達と遊び、お酒に酔いしれていた人は、知らず知らずのうちに、あるいは何かに、信仰的な面をつまづいて昔の行ないに逆戻りするかもしれません。そして、淫乱と好色とあります。これは性的な罪です。このことも、いとも簡単に陥ってしまいます。そして、争いと妬みの生活です。これは高ぶりの罪です。一般の人々は、絶え間なく行っています。陰でひそひそ話をしていること、また誰かを非難し、そしっていること。他の人に敵意を抱いていること。これらは当たり前のことです。けれども、キリスト者はこれらのものから離れていなければいけません。

しかし残念なことに、これら三つの罪がキリスト者と呼んでいる人々の間でも頻繁に起こっています。私たちが御霊に満たされていると思っていたのに、その次の瞬間に肉の欲望に陥ることは十分にあり得ます。その中で厄介なのは、三つ目の罪、争いと妬みです。この罪は、自分が正しいと思っているので悔い改めることが難しいです。ちょうど、イエス様がパリサイ人に対して叱られた、あの偽善に陥っています。福音は、神と自分を比べて自分が間違っているとへりくだることです。偽善は、自分と人を比べて、自分が正しいと思いこんでいます。

私たちは不断の努力で、聖霊に満たされ続けたいといけません。聖霊に満たされることは、一度満たされるのではなく、また満たされる時があって、その努力を中断させて、自分の楽なこと、楽しいことをするのではなく、食べるにも、何をするのも、神の栄光のために行うという、絶え間なく満たされ続けることです。つまり、キリストの知識と恵みで成長することを怠らないことです。

#### **4A 近づいた救い**

そしてパウロは言います。「私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいている」この救いとは、将来の救いのことです。私たちの体が、アダムから受け継いだ罪の性質を持った体を変えられて、天からの栄光の体に変えられる時です。イエス様が天から戻ってこられて、私た

ちが空中に引き上げられて、イエス様にお会いする時であります(例:ピリピ 3:20-21)。

私たちの主イエス様は、滅びゆくこの世から救うために天から戻ってこられます。「ガラテヤ 1:4 キリストは、今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身をお捨てになりました。私たちの神であり父である方のみこころによったのです。」イエス様が戻ってこられて、私たちを空中にまで引き上げられた後に、この地上に神の怒りを下されます。さまざまな災いがこの世に降ります。ペテロも第二の手紙でこう言いました。「1:4 その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらず滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」イエス様は、私たちがこの世とその欲望から救うために戻ってこられます。

この時が信じた時よりも近づいているのです。そうです、日数はもっと少なくなっています。私たちは、あと何日もあると思ってしまう。死ぬことによってこの体から離れるにしても、イエス様が戻って来られるにしても、その日はまだ来ないとどこかで思っています。そのような時は、私たちはこれまでの古いやり方で生きようとする肉の力が働き、心が主から離れ、霊的に眠ってしまうのです。しかし、私たちは夜明けにいるのだということを知る必要があります。イエス様は明けの明星としてすでに輝いておられます。私たちは兆しをすでに見ており、朝が近いことを知っているのです。だから、暗闇の業を捨てなければいけません。そして光の武具を見につけます。何よりも、イエス・キリストご自身から目を離さないで、じっくりと見ていきます。間もなくですから、しっかり忍耐して待ちましょう。